

子ども一人一人の学力向上を目指して

-基礎的・基本的な内容の確実な定着と学習習慣の確立-

北海道教育委員会

はじめに

平成19・20年度全国学力・学習状況調査において、全国と比較し、2年連続して「主として『知識』に関する問題（A問題）の平均正答率が低い」「学校の授業以外に学習する時間が十分でない」などの傾向が見られ、北海道においては、基礎的・基本的な内容の定着、家庭学習の時間や補足的な学習を行う機会の確保などが、共通の課題となっている。

これらの課題解決に向け、学習支援や効果的な学習方法の普及・啓発、家庭における学習習慣についての研修など、学校、家庭、地域が一体となった子どもの「まなび」の環境づくりを行う「北海道『まなび』環境づくりプロジェクト事業」として実施し、その成果をすべての小・中学校に普及・啓発するよう取り組んだ。

I. 都道府県・指定都市教育委員会における取組

1. 事業内容について

(1) 事業概要

本道の学力の課題から、特に

- ・基礎的・基本的な内容の確実な定着
- ・授業以外の時間における学習機会や場の確保
- ・学習習慣の確立

の課題の解決を目指し、

- ・北海道教育委員会の取組の改善充実
- ・アクションプラン推進校による実践研究の推進

について、次のように取り組んだ。

① 北海道教育委員会の取組

アクションプラン推進協議会の開催

- 名称 「北海道確かな学び推進協議会」
- 構成員 市町村教育委員会、校長会、PTA等

○協議会概要

- ・第1回（9月）
取組に対する助言や推進校への支援内容の協議
- ・第2回（12月）
調査結果を踏まえた改善方策の検討等
- ・第3回（2月）
取組の成果と課題にかかわるまとめへの助言

学力向上推進チームの設置

○構成員 指導主事

○チーム会議概要

- ・専門的な見地から、全国学力・学習状況調査の結果分析を行い、北海道の学力にかかわる課題を明確にした報告書の作成。

学習習慣や生活習慣の確立などを図ることを目的として、児童生徒及び保護者向け啓発資料「まなびのすすめ」の作成・配布。

【小学校低学年の保護者向け啓発資料】

保護者の皆様へ
～子どもの学びをサポートしましょう～

◆ 1・2年生の子どもは、このように考えています。

- 「何でも知りたい」「もっとできるようになりたい」と思っています。
- がんばったこと、よいところを「ほめてほしい」と思っています。

子どもの学びを支える3つのポイント

認め、励ます

- ☆ 家庭が手助けし、「よくできたね」「がんばったね」の言葉をかけてみませんか。
- ☆ 子どもが今、学校でがんばっていることを積極的に家庭で金額を褒めてみませんか。

生活リズムを整える

- ☆ 「早寝・早起き」「朝食」「あいさつ」などの基本的な生活習慣を身に付けるようにしてみませんか。
- ☆ 生活のリズムを整え、決まった時間には、学習に取り組めるようにしてみませんか。

一緒に取り組む

- ☆ 少ない時間でも、子どもと一緒に本を借りたり学習に取り組んだりしてみませんか。
- ☆ 子どもと地域に出かけ、自然や職業、人との触れ合いなどの体験をしてみませんか。

保護者と学校の先生、地域の方々が連携し、子どもの学びをサポートしてみませんか。

【中学生向け啓発資料】

予想や考えを大切に学習しよう！
学習の目標や見通しを明らかにして、授業にのぞんでみよう。

効果的な学習習慣を身に付けよう！
☆ 目標を決めて読書しよう。
☆ 自分で学習の計画を立てよう。
☆ 決まった時期に机に向かい、予習や復習しよう。

よみほけ生活リズムを大切にしよう！
「学習」「運動」「食事」「睡眠」のバランスを大切にしよう。

将来の夢や目標を家族に話してみよう。

家族の一員として、お手伝いをしよう。

北海道独自の基礎問題の作成・活用

- ・「チャレンジテスト作成委員会」を設置し、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための問題「チャレンジテスト」の作成
- ・「チャレンジテスト」の内容は、補充的な学習や家庭学習に活用できる基礎的・基本的な問題
- ・「チャレンジテスト」は、すべての市町村に配布するとともに、定期的にWebページに掲載
- ・アクションプラン推進校においては、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るために「チャレンジテスト」を活用

ベーシック問題〔国語〕

市町村や各学校の課題に応じたサポート

- ・推進校の取組を支援する「まなびサポートチーム」を推進地域ごとに編成
- ・「まなびサポートチーム」と推進校による「管内確かな学び推進会議」を開催し、学習習慣の確立のための方策等についての協議

- ・5つのブロック毎に「確かな学び推進会議」を開催し、各管内の取組について交流・協議



- ・管内及びブロック毎に確かな学び推進会議での協議を踏まえ、「まなびサポートチーム」が中心となり、推進校が独自に作成している学校改善プランの見直しや学力向上に向けての取組の工夫にかかわる指導助言を行う「巡回相談」の実施

- ・市町村や推進校の支援のため、学校や教員のニーズに応じた教師向けの研修会「土曜教師塾」を開催



土曜教師塾

上川管内「まなび」推進づくりプロジェクト事業
「まなび」セミナー事業

先生方のニーズに応じた多様な研修を開催し、日中の研修の改善に役立てていただけるような研修を行います。

言語活動の充実に向けて

新学習指導要領の改訂においては、言語活動をはじめとする各教科等の指導において言語活動の充実を図ることが求められています。
しかし、現場では準備が難しいことや、具体的なイメージが湧かないことはいくつかあります。
本研修会では、実践者が実践を語り、各教科等が言語活動に対する意識の高まりや在り方等についての情報交換や協議を行い、教員からの提案や校務研究の推進に役立つ研修を行います。

日時 第1回目 平成21年11月14日(土) 9:00~12:00
第2回目 平成21年12月12日(土) 9:00~12:00
第3回目 平成22年2月6日(土) 9:00~12:00

会場 北海道教育大学旭川校 旭川市北門町97番

講師 北海道教育大学旭川校 笠井 総経 教授

【土曜教師塾：推進地域で作成した案内】

- ・家庭における生活習慣や学習習慣の形成などを図るため、保護者や地域住民向けの研修会「親塾」を実施

みんなで大切にしたい3つのポイント

生活リズム

- 規則正しい生活を守ります。
- 十分に休む習慣を守ります。
- テレビやゲーム、ゲームを止める時間を決めて守ります。
- 机に向かう姿勢を守ります。
- 早寝に努めるよう習慣を守ります。

学習習慣

- 決まった時間になったら机に向かいます。
- 机の上には学習用品だけを置きます。
- 机が汚れたら拭き掃除をします。
- 机が汚れたら拭き掃除をします。
- 決まった時間に机に向かいます。
- 「チャレンジテスト」でも取り組みます。

大人のサポート

- 学習の「リズム」「習慣」「集中力」を大切にします。
- 大人も学ぶ姿勢を大切にします。
- 子どもが机に向かっている間は、静かに見守ります。
- 学習の習慣を大切にします。
- みんなで協力して学習習慣を大切にします。

学習時間は「学年×10分」以上

1年生 10分、2年生 20分、3年生 30分、4年生 40分、5年生 50分、6年生 60分

わたしの学習時間は「**分**」以上

【親子でつくる学習習慣のつくり方】 旭川市教育委員会 旭川市教育委員会 旭川市教育委員会

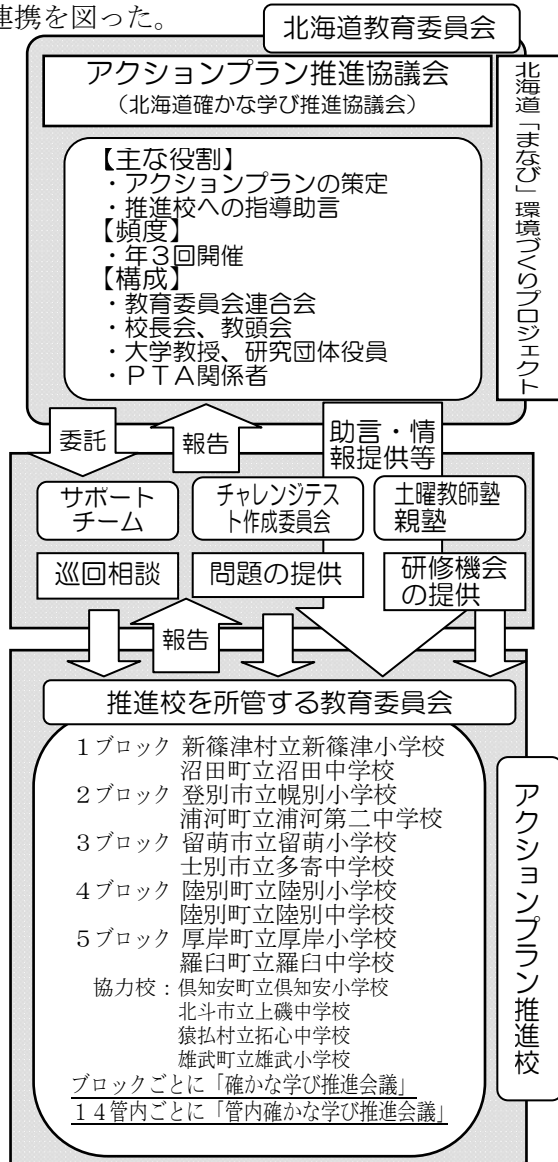
【親塾：推進地域で作成した家庭啓発資料】

② アクションプラン推進校の取組

- ・アクションプラン推進校は、効果的かつ即効性のある学力向上支援策に直ちに取り組むため、課題解決に向けて意欲的な小・中学校の中から選定し、各学校の課題に応じた実践研究を推進
- ・本道を5ブロックに分けて、小5校、中5校を選定（協力校は、小2校、中2校）
- ・基礎的・基本的な内容が身に付いていることを確かめられる取組や学習習慣を確立する学びの場や機会の確保を中心とした取組の推進（詳細は後述）

(2) 実施体制

本事業の実施に当たっては、北海道の広域性を踏まえ、道内を5つのブロックに分け、アクションプラン推進協議会と各ブロック、推進校を所管する教育局との連絡を密にし、連携を図った。



(3) 研究成果

- ① アクションプラン推進校を有する各推進地域においては、まなびサポートチームの編成により、地域の課題に応じた学力向上に向けた取組について協議する体制が整備された。また、推進校の取組を域内の各学校に普及・啓発するなど、地域全体での学力向上に向けた取組が充実した。
- ② アクションプラン推進校においては、各学校の課題に応じ、次のような取組が展開された。
 - ・基礎的・基本的な内容が身に付いていることが確かめられる取組
 - ・児童生徒が学習の見通しを立てることができる学習を位置付ける取組
 - ・短い時間での問題集や小テスト、朝読書の取組
 - ・学力調査の問題を分析・活用し、学習指導を改善する取組
 - ・授業と宿題などの関連を図り、予習や復習の大切さを実感させる取組

2. 普及・啓発と今後の取組について

(1) 成果の普及・啓発に関する取組

学力向上推進チームにおいて、全国学力・学習状況調査の3年間の経年比較や課題解決に向けた実践事例を掲載した「報告書」を作成し、全道の小・中学校に配布した。

(2) 平成22年度以降の取組

平成21年度における取組成果の普及・啓発等が不十分であることから、平成22年度は、次の視点について改善・充実を図った「北海道『まなび』環境づくりプロジェクト事業」を実施する。

< 充実の視点 >

- ① 「まなびのすすめ」や「チャレンジテスト」を活用した実践事例の収集と発信
- ② 特に課題を抱えている地域や学校へのまなびサポートチームによる「巡回相談」の充実
- ③ 「土曜教師塾」、「親塾」の内容面の一層の充実
- ④ 推進校の取組状況を継続的にWebページに掲載

Ⅱ. アクションプラン推進校における取組事例

取組事例①

「繰り返し」と「学力向上プランシート」 留萌市立留萌小学校

(1) 学校の状況について

本校においては、これまでの全国学力・学習状況調査の結果から、国語の「言語事項」や算数の「数と計算」領域における基礎的・基本的な内容の定着や、基本的な生活習慣における家庭学習、読書の習慣に課題が見られる傾向が明らかとなった。

このため、繰り返して学習する内容を指導計画に意図的に位置付けたり、短い時間で問題集や小テスト、読書を行ったりすることなどを中心に取組を進めた。

(2) 全国学力・学習状況調査の結果等を活用した取組について

校内の教育課程検討委員会において、調査結果を分析するとともに、学校改善プランの見直しを行い、次のような取組を行った。

- ① 基礎的・基本的な内容が身に付いていることを確かめる取組
 - ・年度当初に、学力調査結果における誤答の傾向や無解答の状況を分析し、繰り返して学習することが必要と思われる内容を明らかにするとともに、繰り返しの学習を指導計画に意図的に位置付け、児童に基礎的・基本的な内容が確実に身に付いているかどうかを確認しながら指導に当たるようにした。

【第3学年 算数「重さ」(8時間)】

時間	目標 (*繰り返し)
1	身の回りの重さを調べる活動をとおして、重さの比較や <u>測定の仕方</u> 、 <u>意味</u> について考える。
2	
3	はかりを用いた測定の仕方や目盛りの読み方について理解する。
4	ランドセルの重さを調べる活動をとおして、普遍単位「kg」のよさを理解し、「g」や「t」との関係を知る。
5	身の回りにあるものの重さを調べる活動をとおして、 <u>適切なはかりを選び</u> 、 <u>測定の仕方</u> や <u>意味</u> について考える。 (*)
6	

7	重さについての加法・減法を理解する。
8	紙の束の重さを調べる活動をとおして、枚数と重さの関係を理解する。

- ② 学習習慣を確立する学びの場や機会を確保する取組
 - ・学校改善プランに基づき、学年ごとに「学力向上プランシート」を作成し、授業と「朝学習」や「宿題」、「家庭学習」を関連させ、漢字や計算の練習、読書についての指導を行い、学習習慣の形成に取り組んだ。
 - ・特に、「朝学習」では、教員の指導のもと、反復練習が必要と思われる学習内容を復習したり、興味のある本を自主的に読んだりする学びの場や機会として取り組んだ。

	科目	単元	実施月(2024年度)
算数	重さ	身の回りの重さを調べる活動	4月
国語	読書	読書の習慣	4月
総合	生活	生活習慣	4月

<具体的な手立て>

- 誤答や無解答の状況から、繰り返しの学習を指導計画に位置付け指導に当たる。
- 学力向上Pシートを基に、授業と関連を図った学びの場や機会を確保する。

(3) 成果について

- ・繰り返し学習する内容を焦点化したことにより、個に応じたきめ細かな指導がより効果的に行えるようになった。特に、算数の「数と計算」領域における児童の学習意欲の高まりが見られた。
- ・「学力向上プランシート」に基づき授業との関連を図った学びの場等を確保したことにより、保護者から「家庭学習や読書の時間が増えた」などの声が多く寄せられた。

(4) 来年度以降の課題について

- ・繰り返しの学習の効果を高めるため、チーム・ティーチングによる指導との関連を明らかにしていく。

取組事例②

「習得・活用」と「学習の見通し」

登別市幌別小学校

(1) 学校の状況について

本校においては、これまでの全国学力・学習状況調査の結果から、国語においては身に付けた「言語事項」を活用する力や、算数においては、「基礎的・基本的な知識・技能」の定着と活用する力に課題が見られる傾向が明らかになった。

このため、学力調査の問題を分析し、「習得」「活用」等に重きを置いた授業づくりなどにより学習指導を改善したり、児童が学習の見通しを立てることができる学習を位置付けたりするなどを中心に取組を進めた。

(2) 全国学力・学習状況調査の結果等を活用した取組について

全国学力・学習状況調査及び他の学力テストの結果を基に、国語・算数の学力の分析を行い、「身に付けるべき力は何か」を焦点化し、そのためには「どのような手立てをとるか」という方策を立て、次のような取組を共通理解を図りながら行った。

① 指導計画に「習得」、「活用」に重きを置いた授業を位置付けた取組

- ・指導計画に、学習を支える既習事項及び単元で学ぶ知識・技能を明確にした学習指導を構想することで、確実な習得や活用が図られると考え、既習事項を明らかにするとともに「習得」「活用」に重きを置いた授業づくりを行うようにした。

【第2学年 国語「じゅんじょに気をつけて読もう」】○取得(◎活用)させたい力 ◇評価

学習活動「すみれとあり」(二)段落の読み取り	
重 き を 習 得 に	○写真と文章を対応させ、事柄の順序を考えながら内容の大体を読む力 ◇写真と本文を対応させながら、写真の様子を説明するために必要な事柄をワークシートに書き込むことができる。 支援：「まず」、「つぎに」などの言葉を使いながら読み取らせていく。

＜支援のポイント＞

連続する写真と文章を対応させて読み取る活動を通して、事柄の順序を考えながら内容の大体を読む力を高める。

また、文の続き方や問いと答えの文を押さえることで、構成についても意識できるようにする。

学習活動「鳥のちえ」(一)段落の読み取り

重 き を 活 用 に	◎問いの文と答えの文を押さえて読む力 ◎写真と文章を対応させ、事柄の順序を考えながら内容の大体を読む力 ◇写真が本文のどの部分に対応しているかが分かり、必要な事項をワークシートに書き込むことができる。 支援：「まず」「つぎに」などの言葉を使いながら読み取らせていく。
----------------------------	--

＜支援のポイント＞

「すみれとあり」で身に付けた“写真と文章を対応させて内容を読み取る力”を活用する。

- ② 見通しを立てて学ぶ授業づくりの取組
- ・学習の進め方を明らかにし、児童が学習の目的やねらいを理解することで、学習の流れが分かるなど、見通しをもって学習できる授業づくりを行うようにした。

＜具体的な手立て＞

- 授業の導入段階で、既習及び未習の学習内容を明らかにする。
- 授業を見通す場面を設定し、身に付けた知識・技能の活用の仕方を明らかにする。
- チャレンジテスト等を活用し、児童の学習状況をきめ細かに把握する。

(3) 成果について

- ・調査結果を基に具体的な方策を立てて授業改善を行ったことにより、児童が苦手とする内容に重点化を図った指導計画を立てることができた。

(4) 来年度以降の課題について

- ・授業改善の方策について、より一層の共通理解を図るため、相互に授業を参観する機会を多く設定し、授業研究を中核に据えた校内研修を推進していく。

取組事例③

「各教科ごとのシラバス」

羅臼町立羅臼中学校

(1) 学校の状況について

本校においては、これまでの全国学力・学習状況調査の結果から、国語・数学における基礎的・基本的な知識・技能の習得や学習習慣に課題が見られる傾向が明らかになった。

このため、学力調査の問題や結果を分析し、各教科のシラバスを作成・活用することにより、学習のポイントを明確にした授業づくりを行ったり、生徒が「家庭学習と授業」の見通しをもてる学習指導を行ったりすることなどを中心に取組を進めた。

(2) 全国学力・学習状況調査の調査結果等を活用した取組について

全国学力・学習状況調査の結果を基に、学校としての改善の柱を立てて取り組んだ。

改善の3つの柱	【学力アップ】
	・授業力アップと生徒の学習習慣の改善
	【生徒理解力アップ】
・生徒の心の満足を促す生徒指導の改善	
【教師力アップ】	
・「教える」から「伸ばす」という意識の改善（プロ意識）	

シラバスの作成・活用

① シラバスの作成・活用による授業改善の取組

- ・調査の問題や結果の分析などを参考として、学習のポイントを明確にした教科ごとのシラバスを作成し、全生徒に配布するとともに授業づくりに活用した。

【第1学年 数学科「比例と反比例」】

2 反比例（全5時間）	
大切な力	<ul style="list-style-type: none"> ・反比例の関係を見つけて、yをxの式で表す力 ・反比例のグラフをかく力 ・xとyを使って反比例の式をつくる力 ※授業づくりのポイントとして、単元の指導計画を作成する。

授業・予習・復習のポイント

- ① 反比例する量
- <予習> *取り組んだら□に印を付ける。
 - 教科書P100の問題を解き、気付いたことをノートにメモする。
 - <授業>
 - 長方形の縦と横の長さを調べる。
 - 縦と横の長さの関係を表で表す。
 - <復習>
 - ワークブックP74①、P75①に挑戦する。

- ② 反
- <予習>
 - 教科書 P102 の例1 をノートに写し、

※事前に生徒に配布したシラバスの「授業のポイント」を、【主な生徒の学習活動】として、単位時間の計画を作成する。

- ・さらに、シラバスをもとに、授業交流を行うとともに、「フリーカード」を活用した研究協議を行い、授業改善に努めた。

答えをすべて言ってしまう、説明してしまったりするのではなく、考えさせる時間を取ってもよいのでは？受け身のクラスなので難しいですね。答え合わせは一度注目させるとよい。大事なところだったので質問が出るよう、説明にスキを作ってはどうでしょう？

★フリーカード

授業後に、参観した教員が、授業の「よい点」と「改善点」を記入します。そのことにより、研究協議では、話し合いが活性化し、授業改善の方向性が明確になりました。

② シラバスの作成・活用による家庭学習を見通した学習指導

- ・単元の学習の前に、シラバスを生徒に配布し、生徒一人一人が単元全体の見通しをもち、自主的に学習を進めたり、計画的に振り返ったりすることができるようにした。

<具体的な手立て>シラバスにより、
○授業のポイントの明確にした授業を行う。
○見通しをもたせ、学習習慣を確立する。

(3) 成果について

- ・調査結果等を基に各教科ごとのシラバスを作成・活用したことにより、多くの生徒が学習に見通しをもって取り組むようになるとともに、家庭での学習時間が5割程度長くなってきた。

(4) 来年度以降の課題について

- ・授業を地域や関係者に広く公開し、保護者等の声を生かした授業改善に努める。また、家庭での学習習慣にとどまることなく、生活習慣の改善にも取り組む。